

# 第4章

## 特定の属性を通してみた 県民の幸福実感



## 第1節 単独世帯高齢者の幸福実感

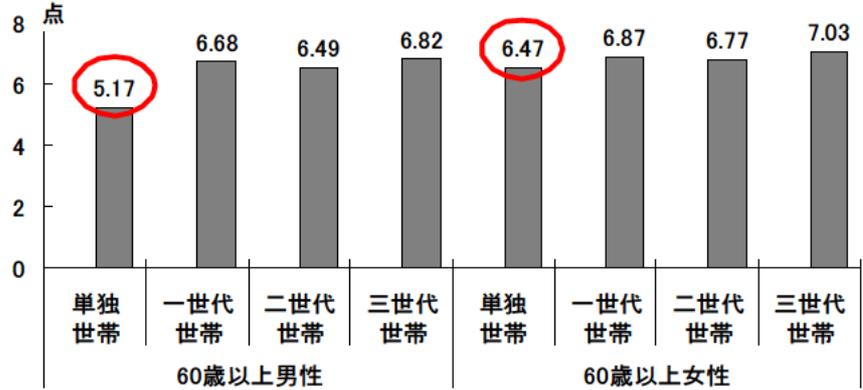
単独世帯は他の世帯類型と比べ幸福感が低くなっています。ここでは、60歳以上の単独世帯の幸福実感について見ていきます。

### 1 幸福実感

詳細なデータは別冊のデータ集 185 ページ

60歳以上の単独世帯の幸福感  
は低く、特に男性で低くなっています  
(図表4-1-1)。

図表4-1-1 60歳以上の世帯類型別の幸福感

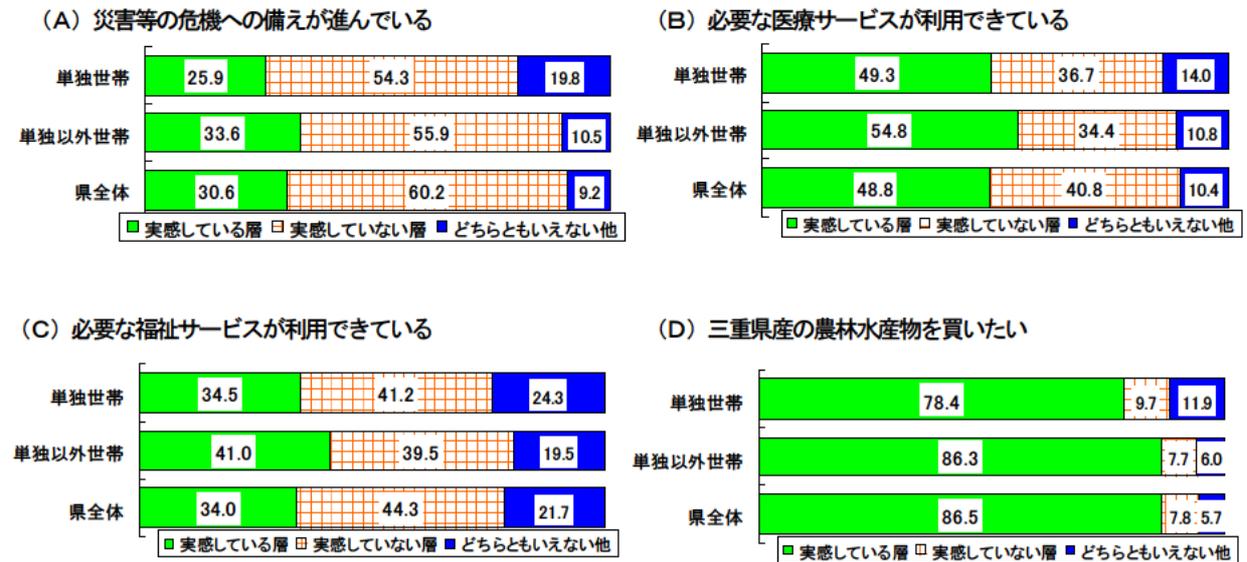


### 2 地域や社会の状況についての実感 (幸福実感指標)

60歳以上の単独世帯の地域や社会の状況についての実感の特徴を見たところ、60歳以上の単独世帯は単独以外の世帯よりも、「災害等の危機への備えが進んでいる」や「必要な医療サービスが利用できている」、「必要な福祉サービスが利用できている」などの実感している層の割合が低くなっています (図表4-1-2)。

詳細なデータは別冊のデータ集 185 ページ

図表4-1-2 60歳以上の世帯類型別の地域や社会の状況についての実感

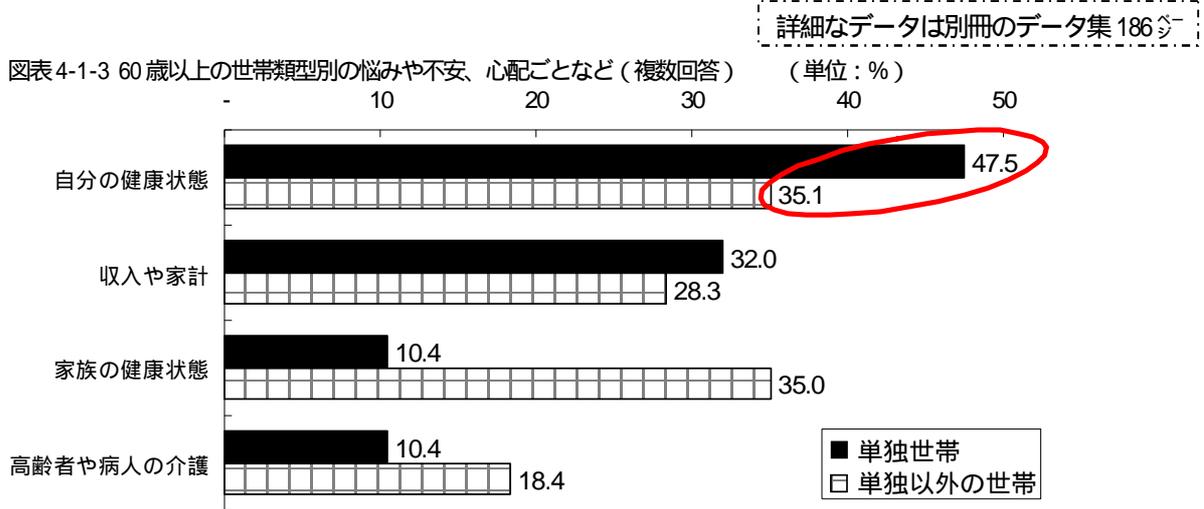


(備考) 単独以外世帯・・・一世代世帯、二世帯世帯、三世帯世帯を集計しています。

### 3 悩みや不安、心配ごとなど

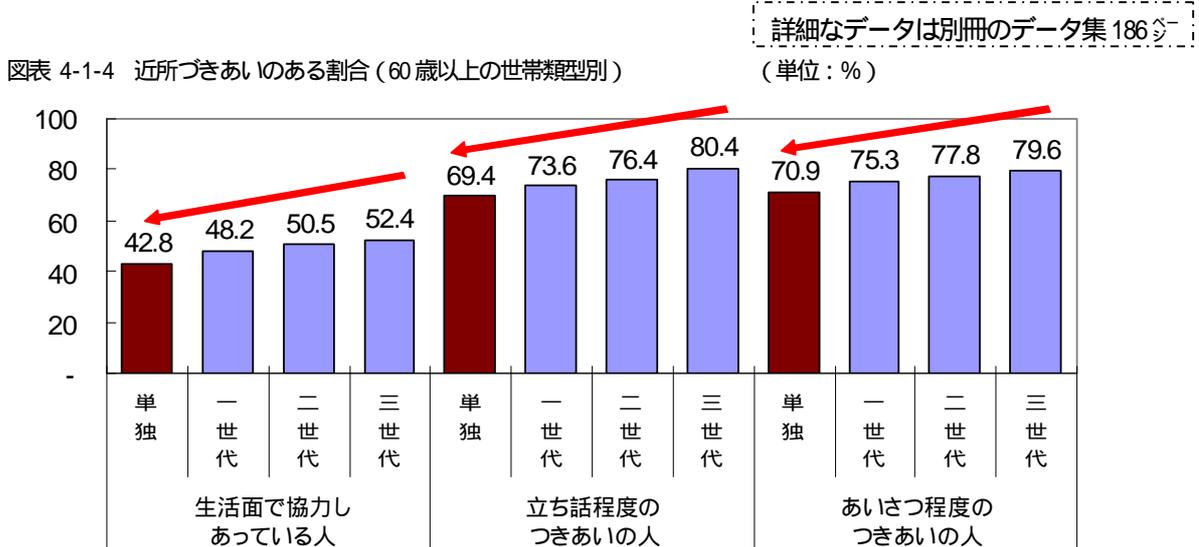
60歳以上の単独世帯は単独以外の世帯よりも「必要な医療サービスが利用できている」と実感している層の割合が低く、悩みや不安、心配ごとなど精神面で負担となっていることとして、自分の健康状態を挙げる割合が単独世帯以外の世帯より高いことから、単独世帯の高齢者は単独以外世帯の高齢者よりも健康面に不安を抱えている割合が高いと考えられます。

また、悩みや不安、心配ごとなどについて収入や家計を挙げる割合も高くなっており、本人の年収が200万円未満の層が全体の約7割を占めていることを勘案すると、経済的に不安を持っている方の割合が高いことがうかがえます（図表4-1-3）



### 4 近所づきあい

近所づきあいの有無について見ると、60歳以上の単独世帯は他の世帯よりも近所づきあいのある人の割合が少なくなっており、孤立化が懸念される状況にあります（図表4-1-4）。



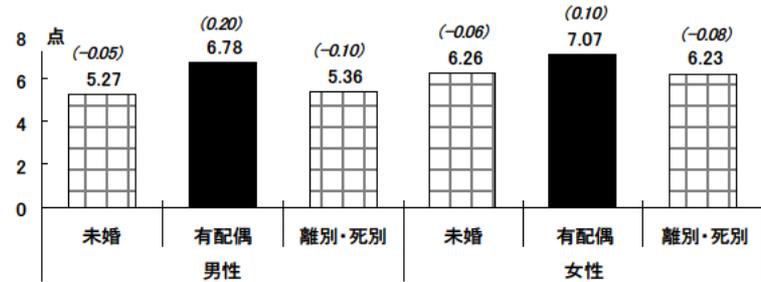
## 第2節 未婚者の幸福実感

詳細なデータは別冊のデータ集187ページ

### 1 幸福感

図表 4-2-1 性・配偶関係別の幸福感（再掲）

性・配偶関係別に幸福感の状況を見ると、前回調査と同様、男女とも未婚や離別・死別よりも有配偶の幸福感が高く、結婚が県民の皆さんの幸福実感と密接な関連があると考えられます（図表4-2-1）。



### 2 同居する家族

20～39歳の未婚者について親との同居割合を見ると、およそ8割が親と同居しており、未婚者の親との同居割合は高くなっています。

なお、国全体の状況を見ても同様の傾向が見られます（図表4-2-2）。

図表 4-2-2 20～39歳の未婚者の親との同居割合

性別	年齢	今回調査		(参考) 国全体の状況
		サンプル数	割合	
男性	20～24歳	74	75.7%	66.4%
	25～29歳	43	81.4%	69.0%
	30～34歳	38	86.8%	74.4%
	35～39歳	35	68.6%	71.1%
女性	20～24歳	71	83.1%	77.3%
	25～29歳	54	81.5%	78.2%
	30～34歳	35	80.0%	80.3%
	35～39歳	25	80.0%	74.0%

- (備考) 1. 「あなたは、誰かと同居していますか」の質問において「親や配偶者の親」を選択した回答を集計。  
 2. 国全体の状況は、第14回出生動向基本調査（平成22年、国立社会保障・人口問題研究所）を参照。

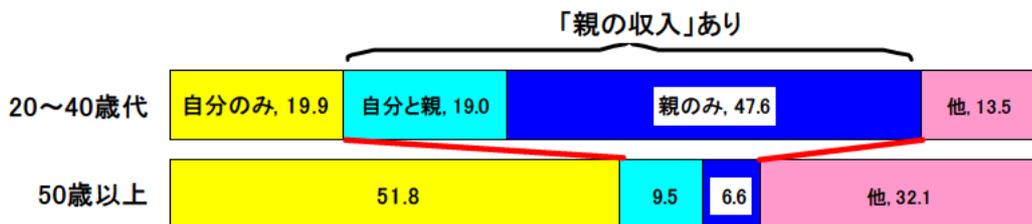
### 3 世帯の家計を主に支えている収入

今回の調査では、世帯の家計を主に支えているのは誰の収入かを複数回答で質問しています。これを未婚者について見たところ、学生を除く20～40歳代の未婚者では、3人に2人が世帯を主に支えている収入に「親の収入」が含まれると回答しています（図表4-2-3）。

詳細なデータは別冊のデータ集187ページ

図表 4-2-3 未婚者（学生を除く）の世帯の家計を主に支えている収入

(単位：%)



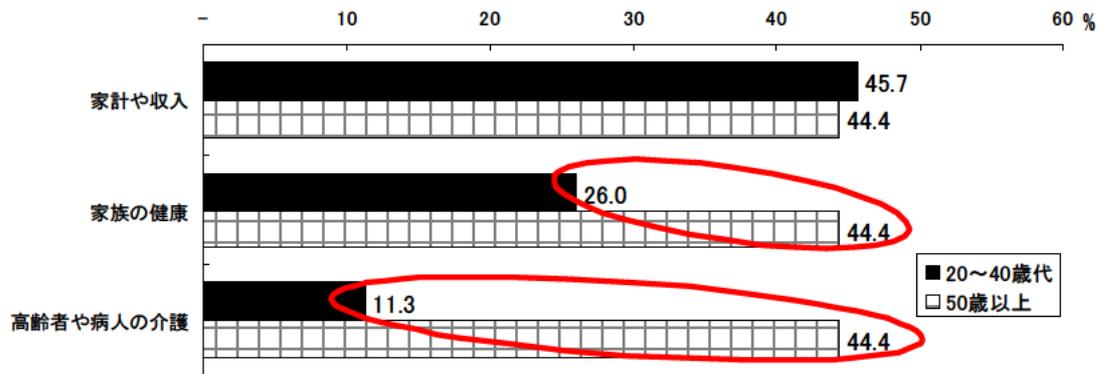
- (備考) 1. 「あなたの世帯の家計は、主にどなたの収入に支えられていますか」の質問に対して、「あなたの収入」、「配偶者の収入」、「子どもの収入」、「親の収入」、「その他」の中から複数回答で選択する形式です。  
 2. 上記図表中、「自分のみ」とは「あなたの収入」のみを選択した人、「自分と親」とは「あなたの収入」と「親の収入」を選択した人、「親のみ」とは「親の収入」のみを選択した人を集計しています。

#### 4 親と同居する未婚者の悩みや不安、心配ごとなど

親と同居する未婚者（学生を除く）の悩みや不安、心配ごとの有無を40歳代までと50歳以上に分けて見たところ、「家計や収入」については年齢別の差は見られませんが、「家族の健康」や「高齢者や病人の介護」については50歳以上で高くなっています（図表4-2-4）。

図表 4-2-4 単独世帯の高齢者の悩みや負担、心配ごとなど

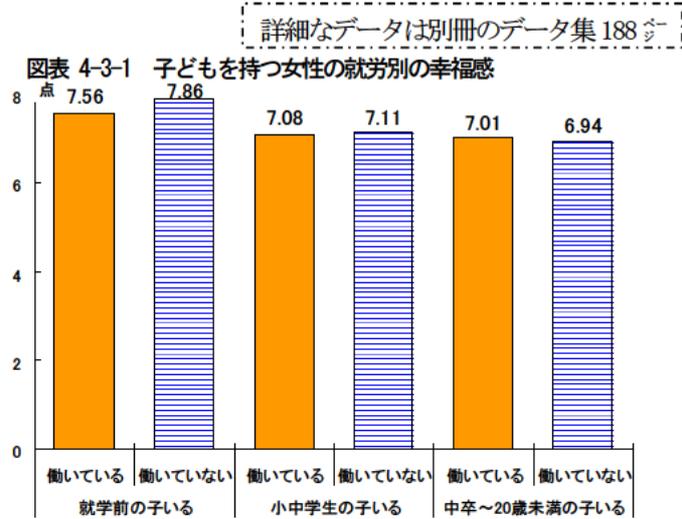
詳細なデータは別冊のデータ集187ページ



### 第3節 子育てをしながら働く女性の幸福実感

#### 1 幸福実感

子どもを持つ女性の幸福感を働いている（収入のある仕事をしている）場合と働いていない（収入のある仕事をしていない）場合に分けて見ると、幸福実感の平均値は就学前や小中学生の子どもがいる女性は働いていない方が、中学卒業後20歳未満の子どもがいる女性は働いている方が、それぞれ高くなっていますが、いずれも統計的に有意な差は見られません（図表4-3-1）。



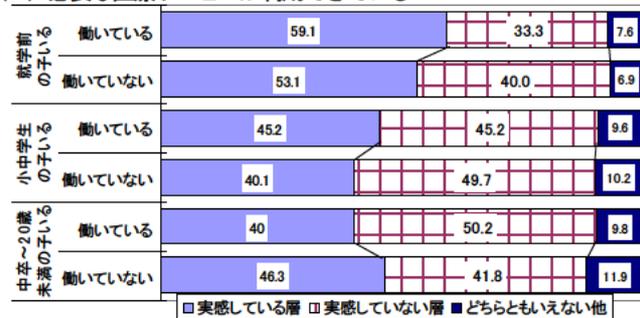
#### 2 地域や社会の状況についての実感

子どもを持つ女性の地域や社会の状況についての実感を、働いている場合と働いていない場合に分けて見ると、就学前の子どもを持ち働いている女性は「必要な医療サービスが利用できる」と実感している層が59.1%で、働いていない女性よりも実感している割合が高くなっています（図表4-3-2（A））。

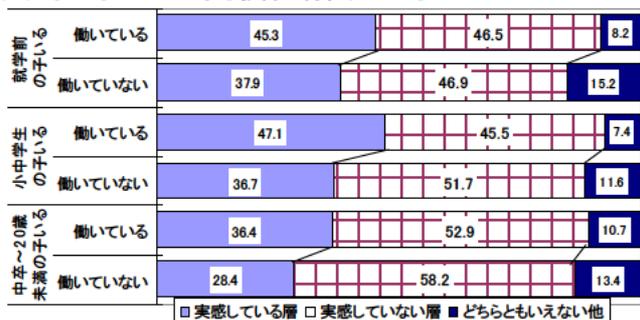
「子どものためになる教育が行われている」や「地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている」についての実感は、就学前の子どもを持つ層、小中学生の子どもを持つ層、中学卒業後20歳未満の子どもを持つ層のいずれも、働いている女性の方が働いていない女性よりも実感している割合が高くなっています（図表4-3-2（B）（C））。

図表 4-3-2 子育てをしている女性の地域や社会の状況についての実感

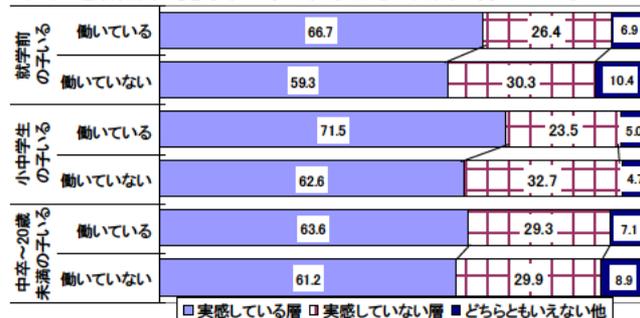
##### (A) 必要な医療サービスが利用できる



##### (B) 子どものためになる教育が行われている



##### (C) 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている



### 3 悩みや不安、心配ごとなど

悩みや不安、心配ごとなど精神面で負担となっていることについて、子どもを持ち働いている女性に見ると、「収入や家計」は就学前、小中学生、中学卒業後20歳未満のいずれの子どもを持つ層においてもおよそ50%であり、大きな差は見られません。

一方、子どもの年代によって、「育児、子どもの世話」や「子どもの教育」、「子どもの将来」を挙げる割合は異なっています（図表4-3-3）。

図表 4-3-3 子どもを持ち、働いている女性の悩みや不安、心配ごとなど

詳細なデータは別冊のデータ集188頁

